

## 5 - 2 東海・南関東地域の地震活動（1985年5月～10月）

### Seismic Activity in the Tokai and Southern Kanto Districts, May - October, 1985

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division

Japan Meteorological Agency

第1図 (a) ～ (f) は1985年5月から10月までの東海・南関東地域における震源の深さ90km以浅の地震の月別震央分布であり、第2図 (a), (b) はそれぞれ5月～7月、8月～10月の3か月間の震央分布である。この期間の主な地震活動としては、7月21日～23日頃の八丈島付近の群発地震、9月21日～22日頃の新島付近の群発地震、10月13日頃から始まった伊豆半島東方沖の群発地震、10月3日の京都・滋賀県境付近の地震、10月4日の茨城・千葉県境付近の地震などがあった。これらの地震活動についてはそれぞれ別項で述べる。

東海地域では、静岡県西部から愛知県にかけての地域とその沖合いで地震が多く発生したが、この期間 M4.0 以上の地震は起こっていない。これらの地震のうち、9月13日07時58分に駿河湾で発生した M3.9 の地震 (H = 28km) では石廊崎で震度2の有感であった。この付近の最近の地震としては、1983年4月8日に M4.0 の地震がこれより10 kmくらい北側の湾の中央部であった。またこの期間、浜名湖付近で小さい地震が頻発した。

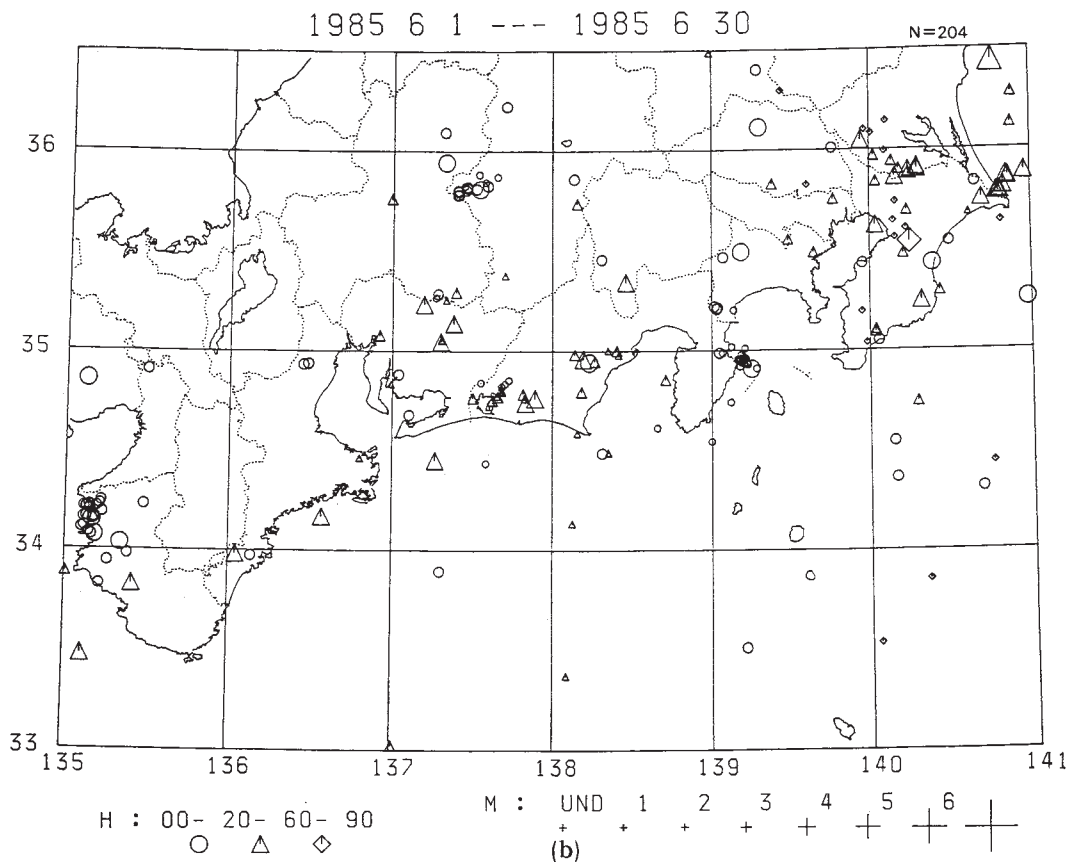
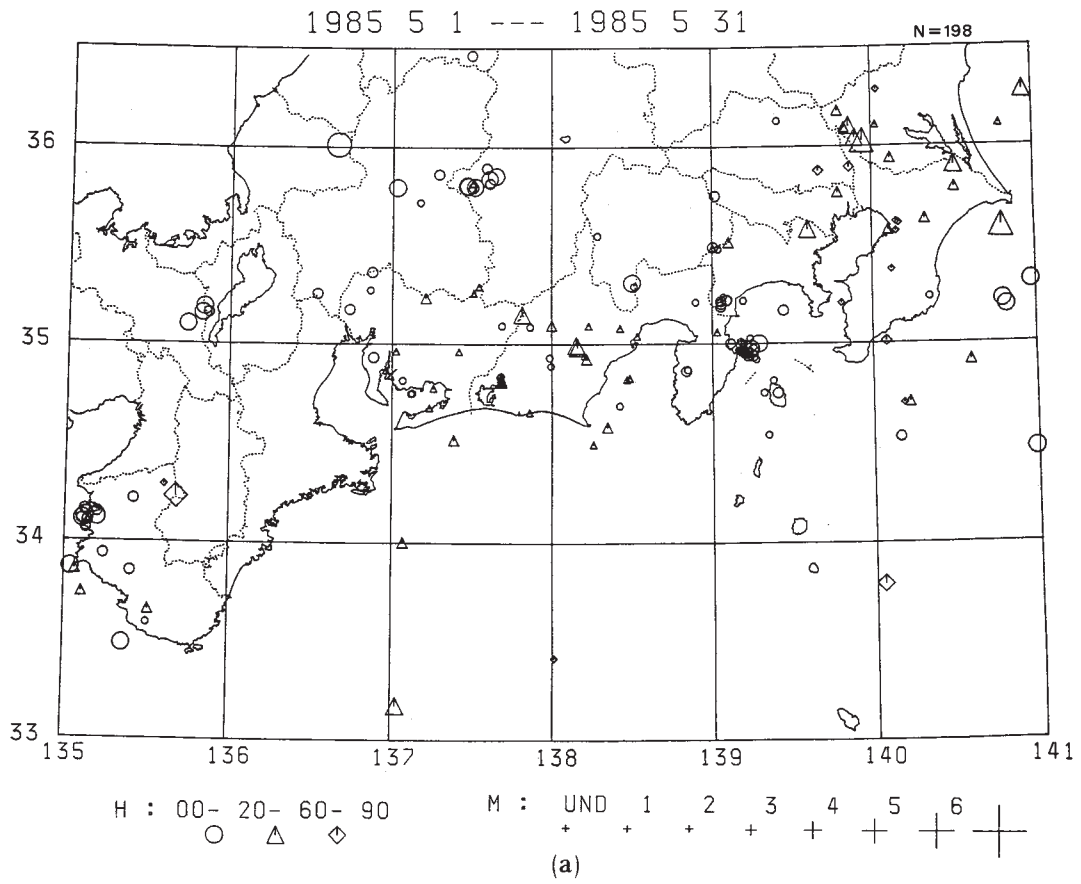
周辺域では、前述の地震活動のほか、長野県西部地震の余震活動、神奈川・山梨県境付近、箱根付近、伊豆大島北部の地震活動などが目立っている。また、千葉県中部の東京湾沿いでまとまった活動がみられ、銚子付近では6月30日17時から20時にかけて M3 クラスの地震が7回（うち有感5回）連続発生した。房総半島南東沖では10月4日に M5.6 の地震が発生、館山で震度3を観測したのを始め関東地方を中心に東北地方南部から中部地方の一部にかけて有感であった。

第3図は1985年1月から6月までの半年間の震央分布である。東海地域とその周辺部では、この期間も、浜名湖付近の微小地震活動、伊豆半島東方沖の群発地震、箱根付近の地震活動、長野県西部地震の余震活動などが目立っている。このほか3月から4月にかけて、山梨・埼玉・長野県境付近で発生した地震活動は、これまであまり地震が無かったところで発生したもので注目された。

第4図 (a), (b), (c) は東海地方における地震活動の変化をみたもので、図 (b) は図 (a) に示す A, B, C 3地域について、最近4年間の M-T プロット、放出エネルギーおよび地震回数の積算値を示したものである。図 (c) は伊豆地方を中心とした C 地域について拡大したものである。用

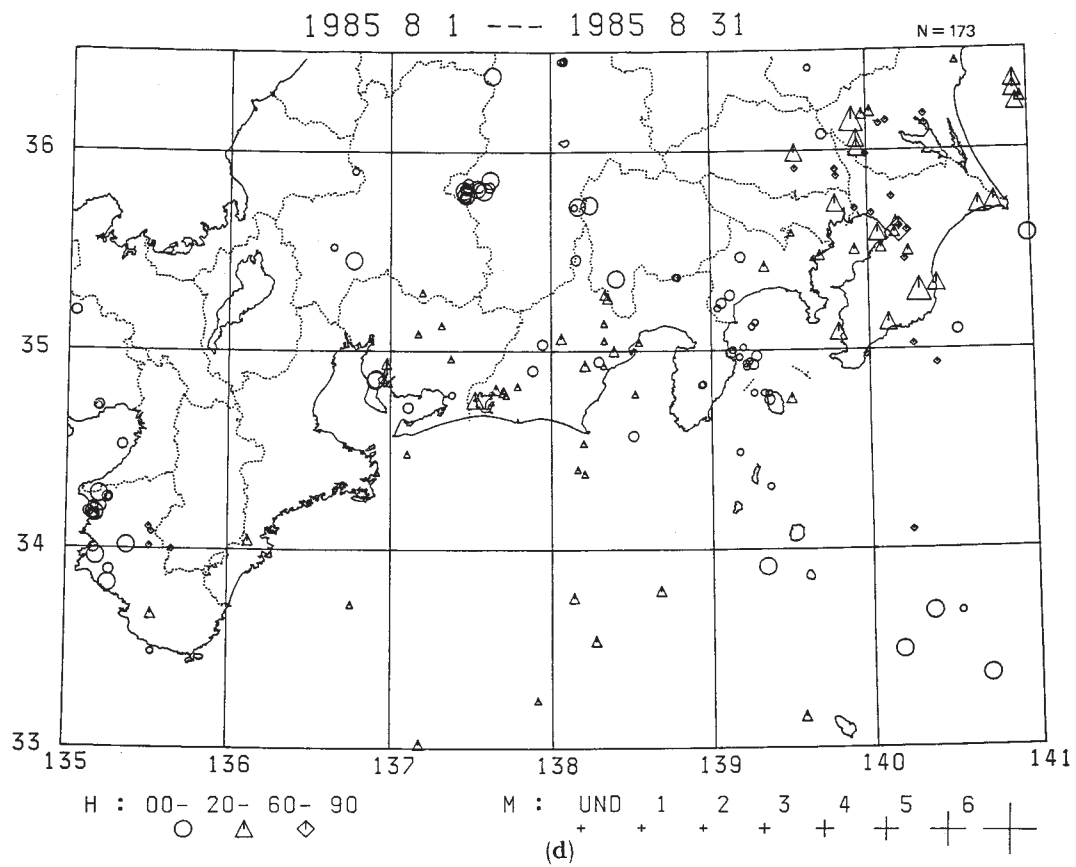
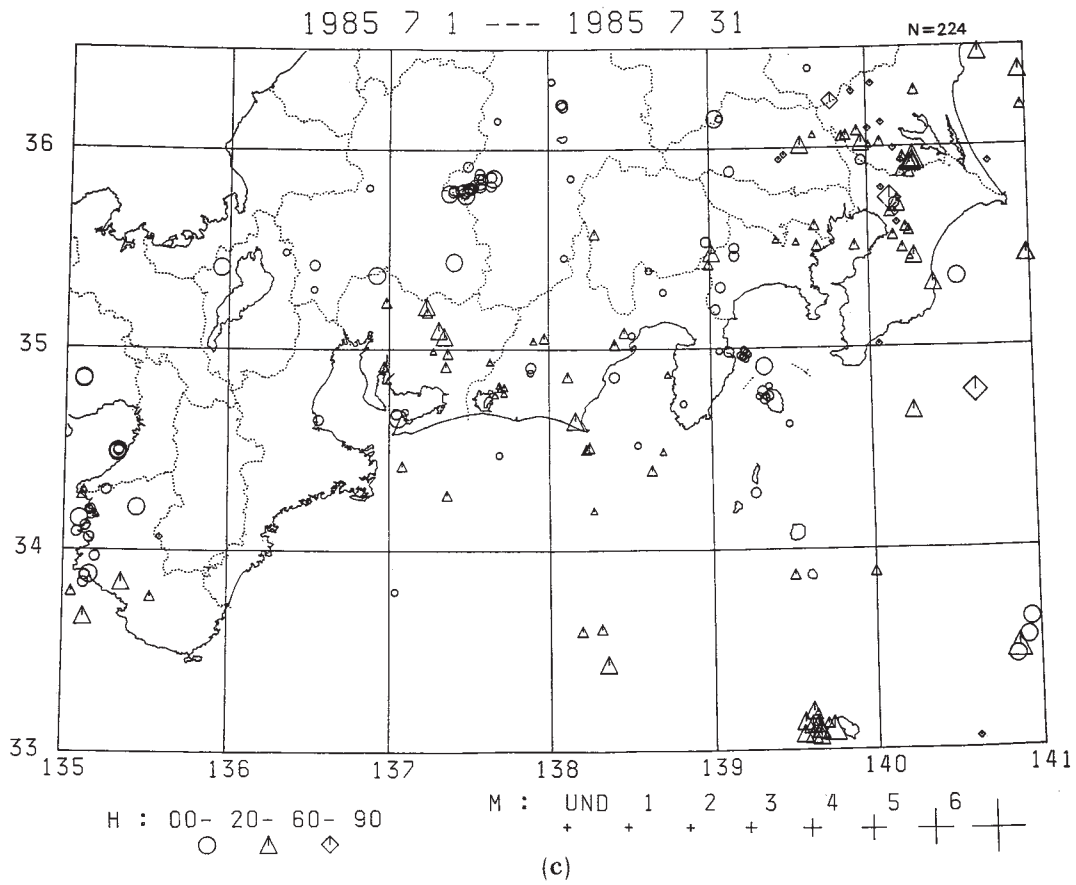
いた地震は東海常時監視網で震源が求められたもの（地震月報の震源が求められたものはこれに置き換えまたは追加）のうち震源の深さ 60km 以浅の地震すべてである。ただし、M-T プロットでは M3.0 以上の地震のみをプロットした。放出エネルギーの積算では、図 (b) の場合  $1 \times 10^{20}$  エルグ、図 (c) の場合  $1 \times 10^{21}$  エルグに達するとリセットされるようになっており、R を付した数字はその回数を示す。図 (b) の中で、階段状に上がっているのが放出エネルギーの積算値であり、比較的緩やかに上がっているのが回数の積算値である。

最近のところでは、A 地域と B 地域で地震回数の増え方が 1985 年 5 月頃から若干急になっていたが、A 地域では 9 月後半には元の状態に戻っているように見える。東海地震の予想震源域に当たる B 地域では依然としてその傾向が続いている。C 地域では、10 月から 11 月の伊豆半島東方沖の群発地震により回数は非常に多くなっているが、小さい地震が多く、エネルギー的には極く小規模な活動であった。



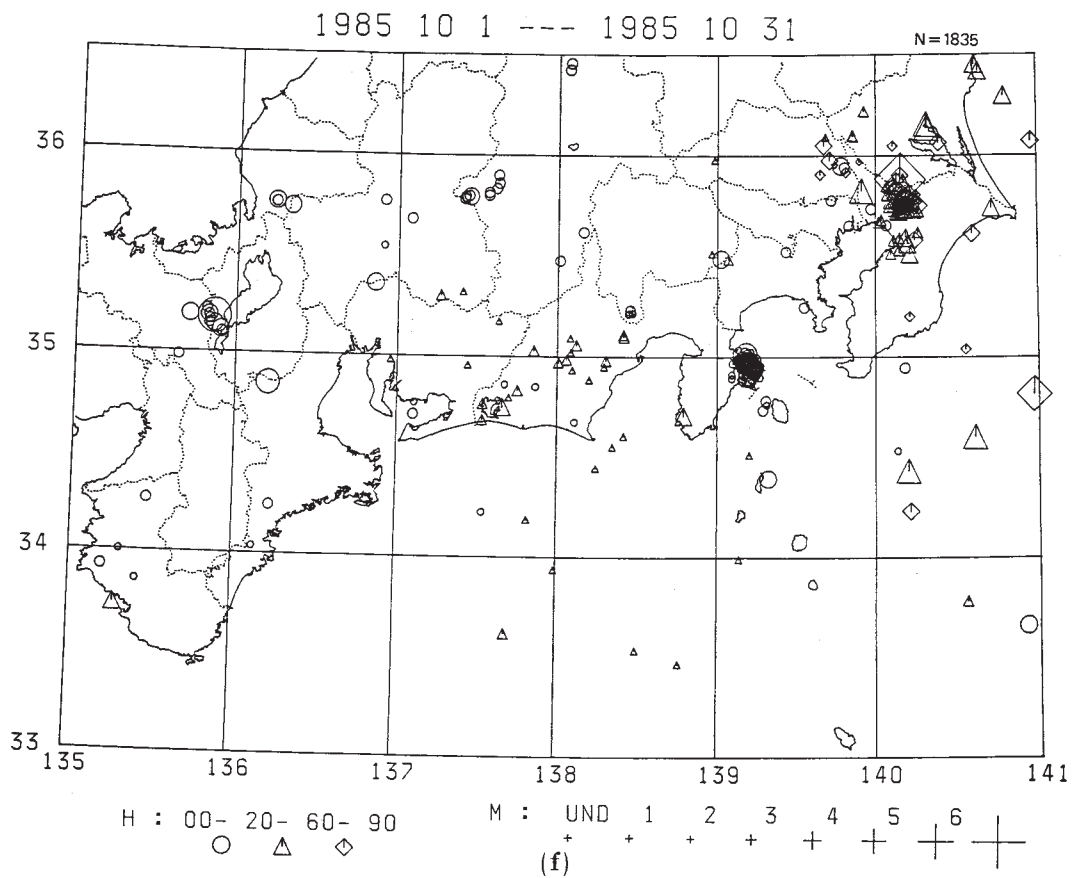
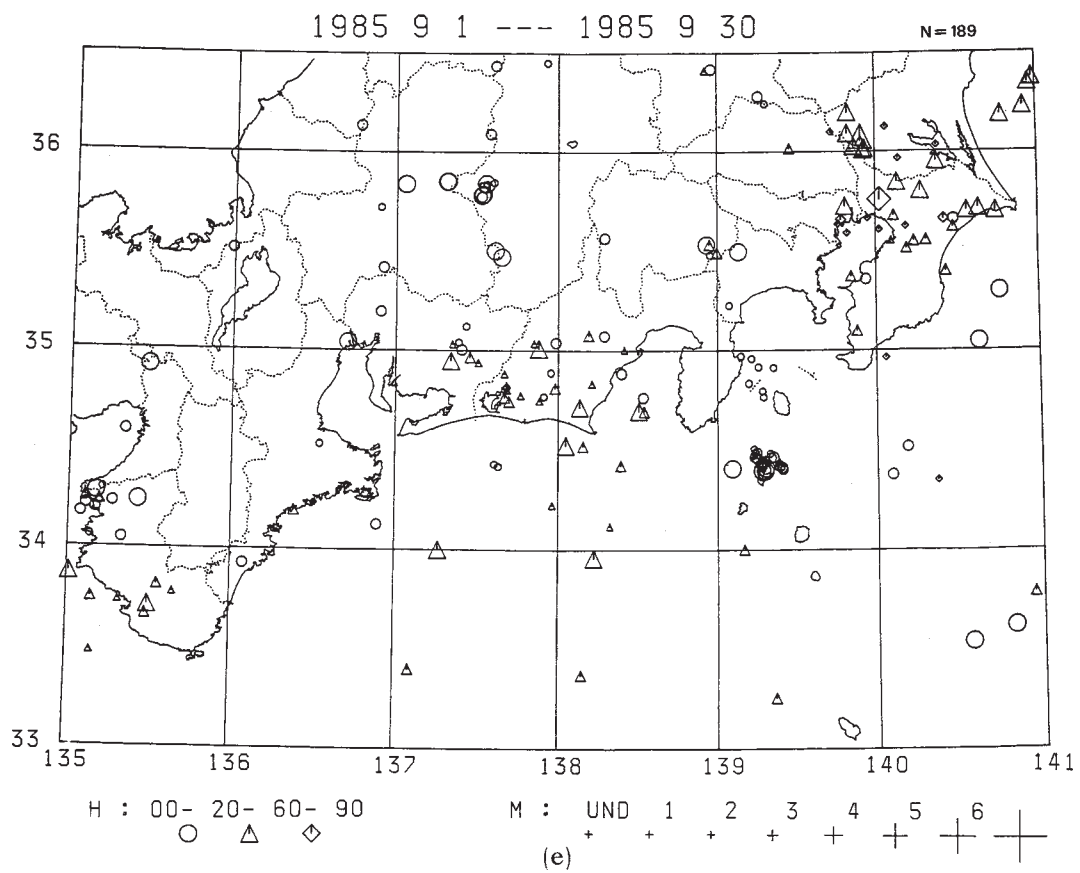
第1図 (a) ~ (f) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布 (1985年5月~10月)

Fig. 1 (a) - (f) Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts, May - October, 1985.



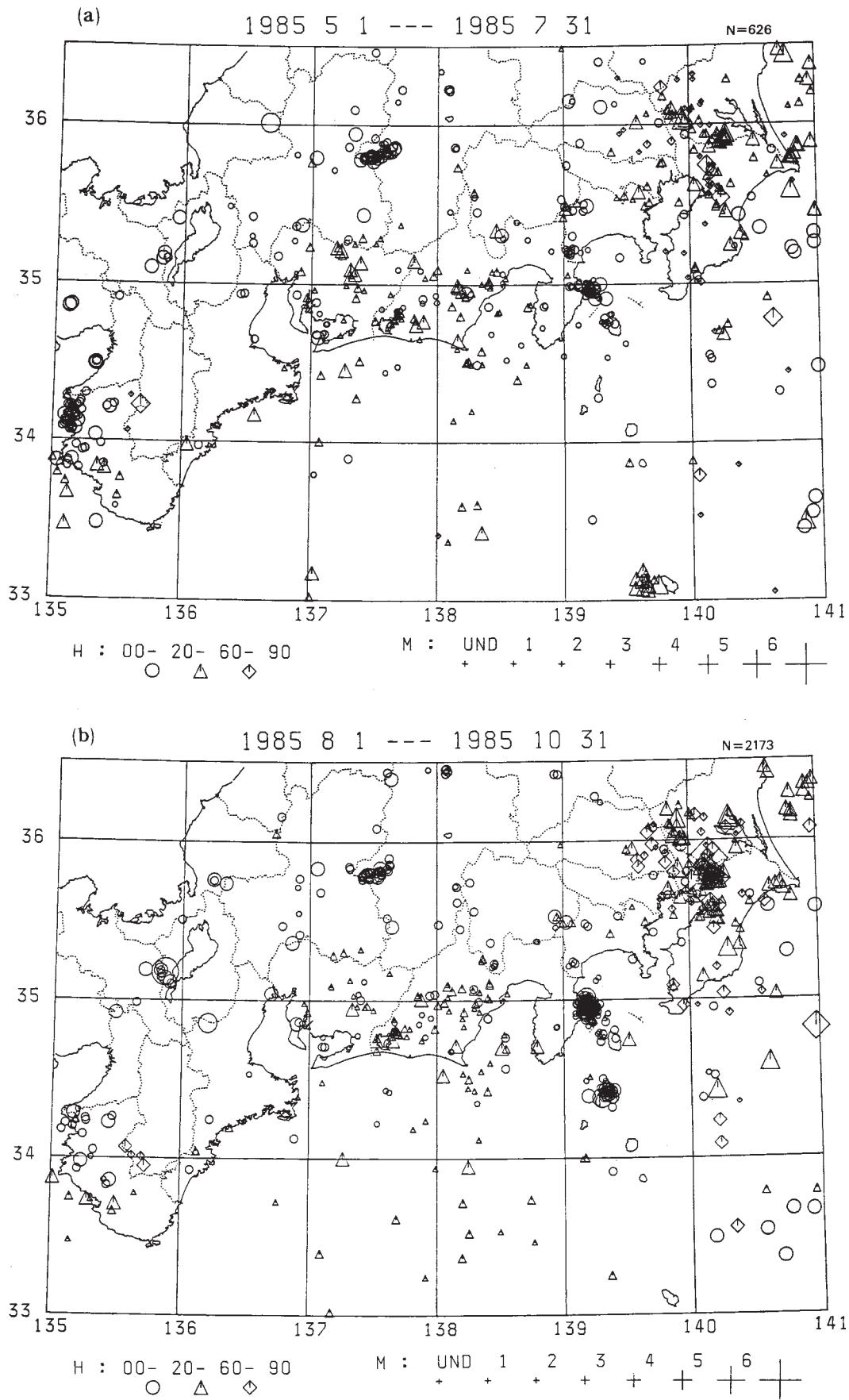
第1図 つづき

Fig.1 (Continued)



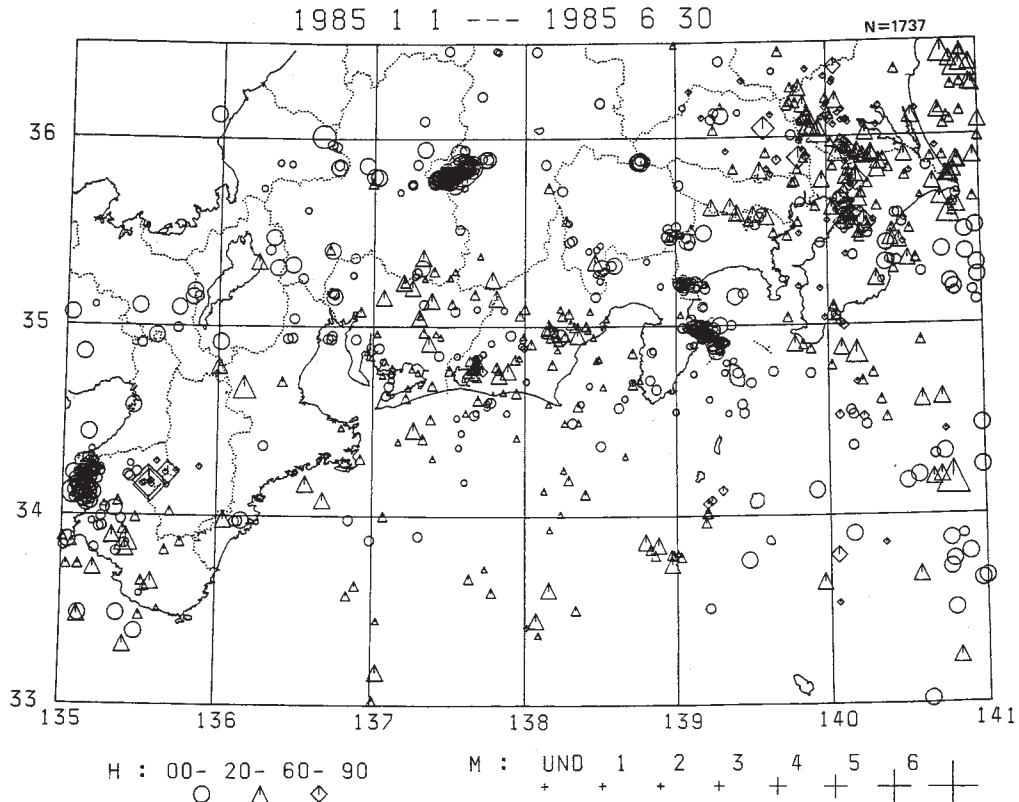
第1図 つづき

Fig.1 (Continued)



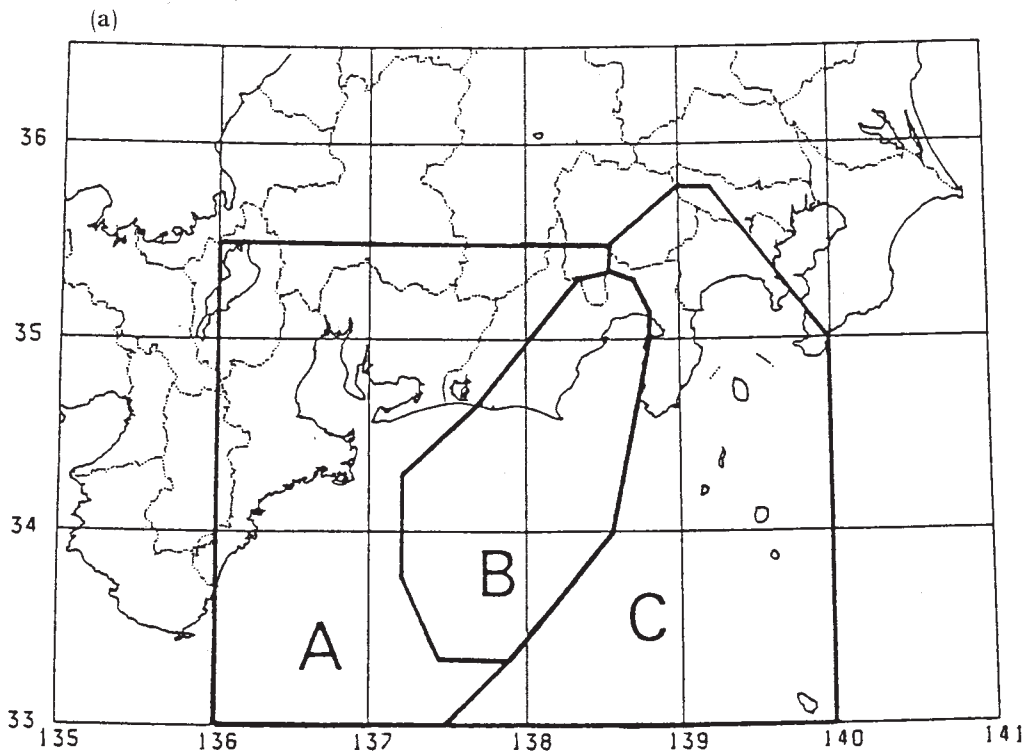
第2図 (a), (b) 東海・南関東地域に発生した地震の3か月毎の震央分布  
 (a) 1985年5月～7月  
 (b) 1985年8月～10月

Fig. 2 (a) and (b) Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts in for (a) May - July and (b) August - October, 1985.



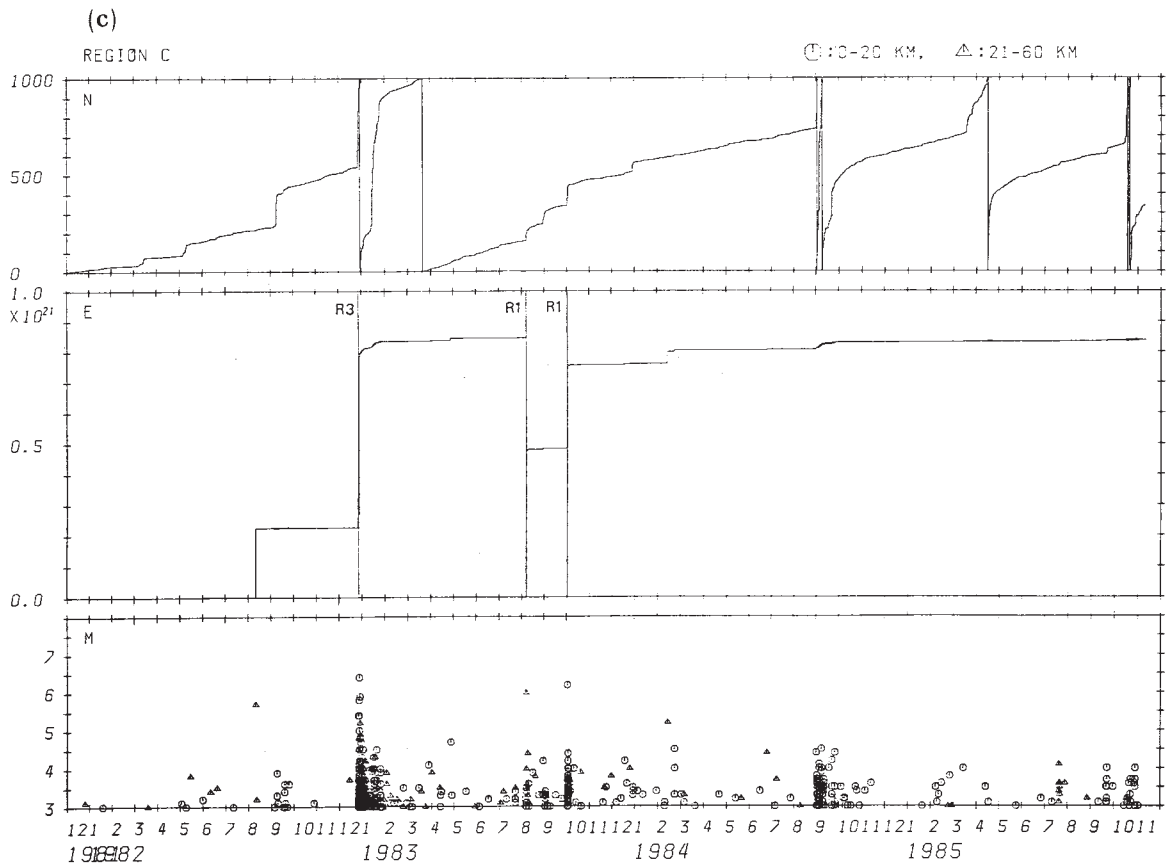
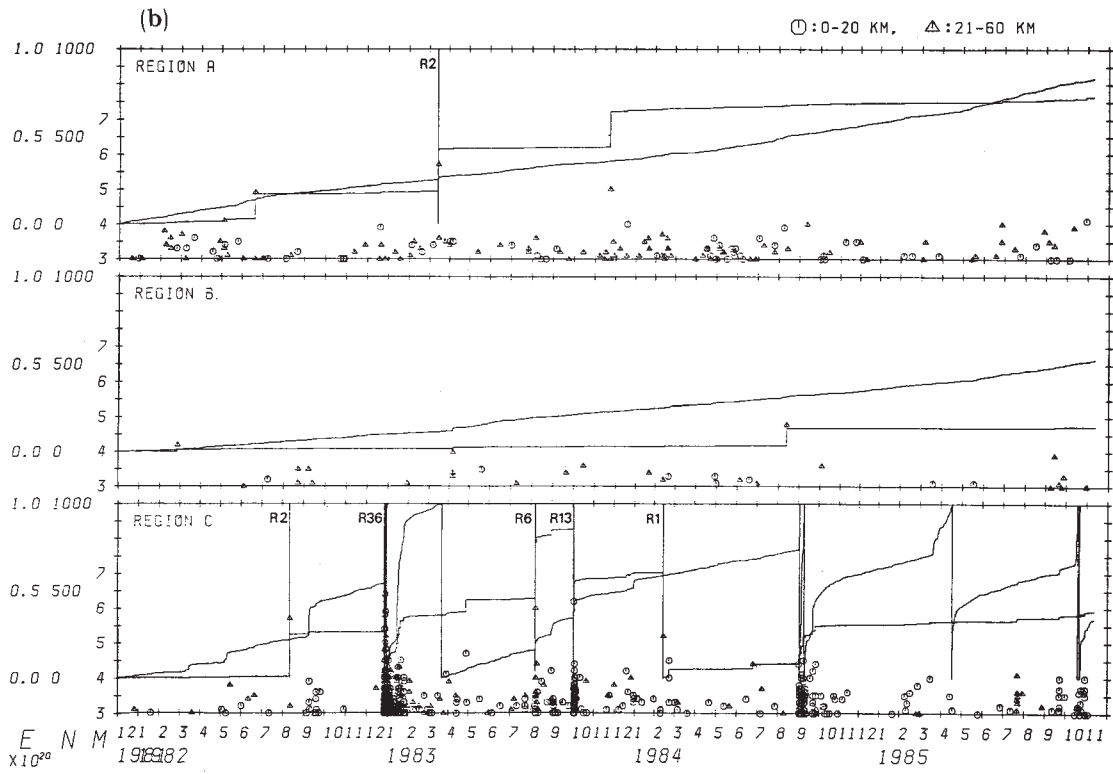
第3図 1985年1月～6月に東海・南関東地域に発生した地震の震央分布

Fig. 3 Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for January - June, 1985.



第4図 (a) (b), (c) 東海地方における地震活動の変化

Fig. 4 Seismic activity in regions A, B, C shown in Fig. (a), December, 1981 - November, 1985. Fig. (b) shows three parameters, that is, accumulated frequencies (smoothly ascending curve), accumulated energy release (stepwise ascending curve), and magnitude (circles and triangles) for regions A, B and C. As the lowest figure of (b) for region C is so complicated, three parameters for the region are given separately in Fig. (c) with different energy scale.



第4図 つづき

Fig. 4 (Continued)